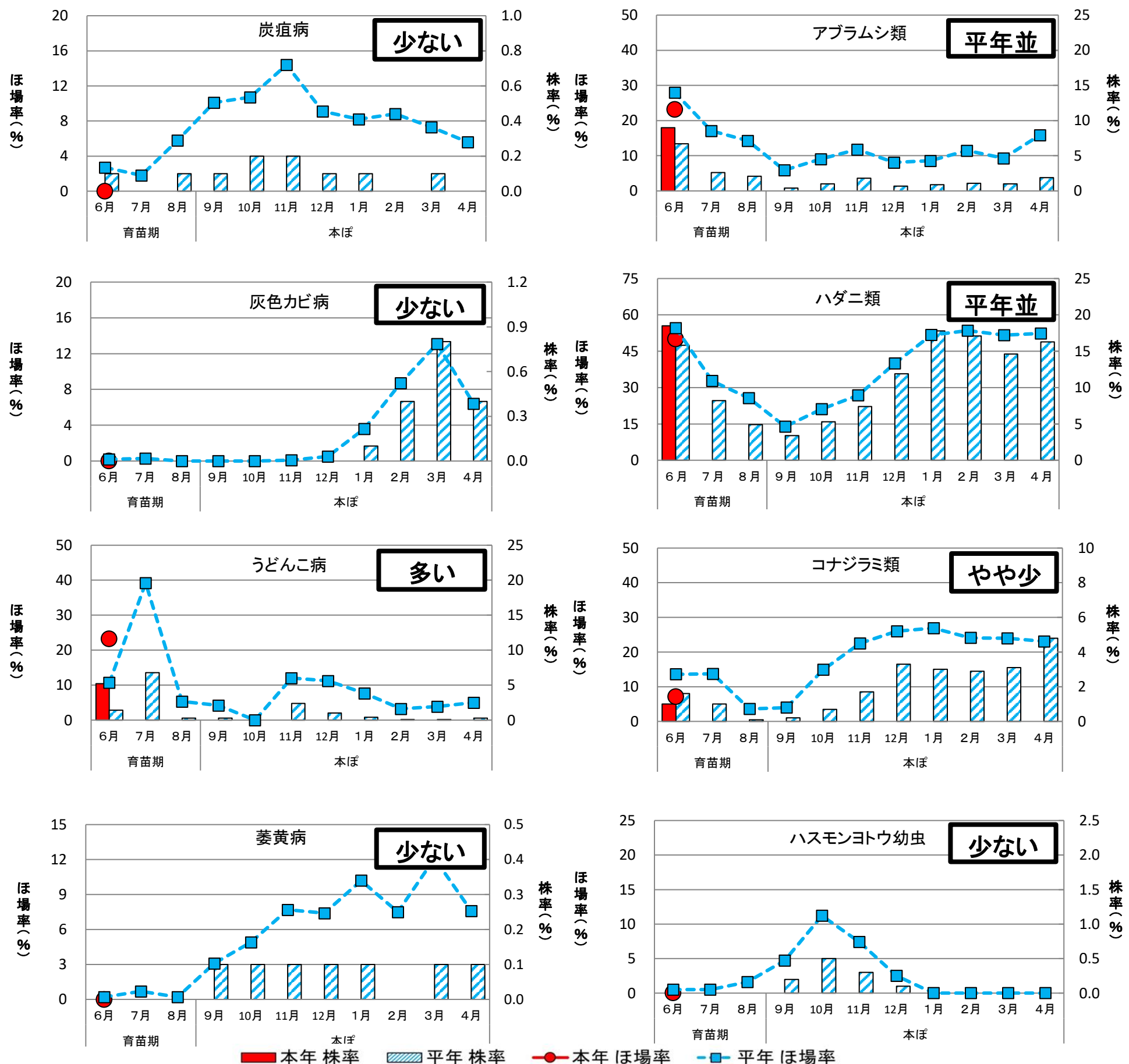


いちご病害虫情報第1号（6月）

令和7（2025）年6月20日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：56か所】



■ 今月の防除ポイント

ー 炭疽病 ー

高温・多湿条件で発生が拡大しやすい病害のため、高温が予想されている本年は多発のおそれがあります。発生後の防除が困難なため、予防を主体とした防除対策を徹底しましょう。

- 1 症状が出てからの防除は困難なので、発生前から薬剤※を定期的に予防散布する。
※ベルコートフロアブル(RACコードF:M7)等。
- 2 分生子の飛散・伝染を防ぐため、できるだけ水の跳ね返りのない方法※でかん水を行う。
※頭上かん水は控え、点滴チューブ等。
- 3 罹病株は早急に抜き取ってほ場外へ持ち出し、嫌氣的発酵処理※後に処分する。
※罹病株を肥料袋等に詰め、空気を排出して口を閉じ、日当たりのよい野外に放置する。

イチゴ炭疽病について、詳細は以下をご覧ください。

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/boujo/documents/point21.pdf>

■ 今月のトピックス

－ うどんこ病 －

うどん粉をまぶしたような白色のカビによる病害(写真1～8)です。長雨等の過湿や日照不足で軟弱徒長した株、過繁茂した株で多く発生します。うどんこ病が発病したつぼみでは、花弁がピンク色に変色することがあります(写真5)。

予防を主体とした防除対策を徹底しましょう！

- 1 育苗時からの防除を徹底し、本ぽに菌を持ち込まないようにする。
- 2 薬剤防除を行う際には、薬剤に展着剤を加え、葉裏にも薬液が良くかかるようにていねいに散布する。

《葉での病徴》



写真1 葉表



写真2 葉裏



写真3 果梗

《花・花柄・果実での病徴》



写真4
がくと果梗



写真5
花卉の変色



写真6 被害果(未熟)



写真7 被害果(成熟)

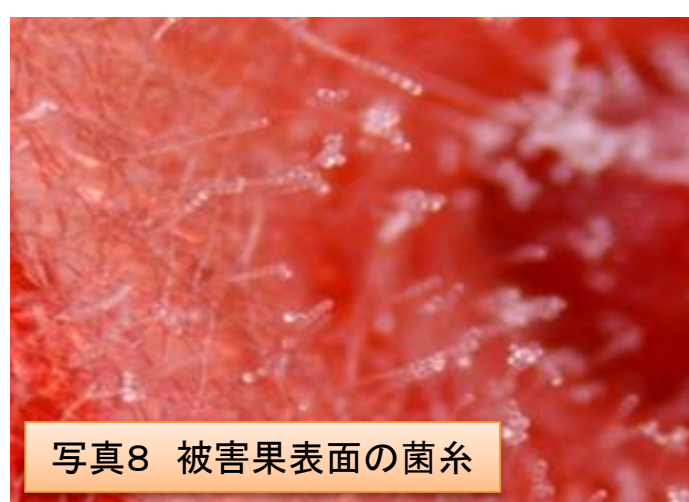


写真8 被害果表面の菌糸

詳細は、農業総合研究センター 防除課 (Tel 028-665-1244) までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「[@tochigi_nousei](mailto:tochigi_nousei)」、
[農業総合研究センターホームページ \(https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html\)](https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html)
でもご覧いただけます。

